

情報共有

非管理メモ

NISA 719 プレス対応

5枚

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 6 月 15 日 (水) 11:00~12:00
 場所：東京電力本館 3 階大会議室
 先方：記者約 30 名 (カメラ 4 台)
 当方：原子力・立地本部 [REDACTED]
 原子力設備管理部 [REDACTED]
 広報部 [REDACTED]

配布資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて【6月15日午前9時現在】
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (6月15日6:00現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (6月15日)
- ・ 福島第一原子力発電所 2号機 原子炉建屋内空气中放射性物質濃度推移
- ・ 福島第二原子力発電所 3, 4号機放水口付近の海面への油漏えいの調査結果について
- ・ 福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所医務室および健康診断の様子 (訂正)
- ・ 原子力発電所における吊り下げ設置型の高圧遮断器に係る火災防護上の必要な措置の実施等に関する報告書の経済産業省原子力安全・保安院への提出について
- ・ 福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所医務室および健康診断の様子 (訂正)

Q. 1号機原子炉建屋の除染作業は何人体制で何時から開始したのか。またどのような作業を行っているのか。

A. 計画時間は本日 10 時 30 分から 12 時までで、作業体制としては、当社作業員 2 名、協力企業作業員が 21 名を予定している。実績については午後の会見で報告させていた。3つの試験があり、高圧ジェット水による床面への放水および掃除機で吸い取る方法、ポリッシャで床面を擦りとり掃除機で吸い取る方法、最後は塗膜剥離型除染剤という薬液で床面を塗り固めた後、シールのように汚染物質ごとにはぎ取る方法がある。場所は大物搬入口付近であり、正確には建屋の外側になる。

Q. 大物搬入口床面の除染試験の目的は。また、試験が成功した場合、どのように展開していくのか。

A. 床面の放射性物質を除去することで作業環境の向上を図るもの。試験の結果、最も効率的な方法により、今後、1号機原子炉建屋建屋内、2・3号機へ展開していきたい。

Q. アレバの除染装置の試運転はまだ開始していないのか。いつから始まるのか。アレバ社の除染装置とキュリオン社のセシウム吸着装置を組み合わせた試運転はいつか

ア

ら開始するのか。

A. アレバの除染装置の試運転まだ開始していない。本日、午後の開始を予定しており、約8時間運転する予定。その後、組み合わせた試運転を開始する予定。

Q. 高濃度汚染水を入れる10,000m³のタンクの搬入、設置など進捗はどうか。

A. まだタンクの製造中であり、搬入などは進んでいない。

Q. 水処理システムに故障が起きた場合どのように対応する予定か。

A. アレバ社の除染装置もキュリオン社のセシウム吸着装置も全体をバイパスするラインがあるので迂回することができる。またセシウム吸着装置は4ラインで構成されており、1ラインを隔離して運転することも可能

Q. 水処理システムを運転しながら修理することは可能か。

A. 線量が高く人が近づかないと修理できない場合などは停止することはあるのではないかな。

Q. プロセス主建屋のOP5100mmまで残り400mm程度と思うが、OP5100mmに達するまで2・3号機から並行して移送しているのか。

A. 並行して移送を続けている。

Q. プロセス主建屋は今日、明日で一杯になるという理解でよいか。

A. その認識である。

Q. 雑个体減容処理建屋と1号機復水器の最新の状態は。

A. 1号機復水器は本日10時33分から復水貯蔵タンクへ移送を行っており、空き容量を増やすよう準備を進めている。雑个体減容処理建屋はまだ安全の評価は終わっていないので報告がまとも次第、保安院へ提出したいと考えている。

Q. サイトバンカ建屋・焼却工作建屋に移送する計画は。

A. 止水工事は完了しているが、現時点でこれらの建屋へ移送する計画はない。

Q. 今回の被ばく線量の調査の3月中では、グループに一つの線量計を持たしていたと聞いているが、グループの作業の中でも高線量の場所と低線量の場所があるので作業員に大きな差があり、調査は不十分だと思うが。

A. 3月で線量計が足りなかった場合はグループの班長に1つ渡していた。グループで同じ作業をしているので、グループの代表者の方の線量で評価するという方針で評価している。

Q. 同じ作業でも、グループの代表者と離れた場所で作業する作業員もいると思うが。

A. 確かにばらつきはあると思うが、線量計が足りなかったこともあり、基本的には線量としてはあまり変わらないと思っているので、そういった評価をしている。環境などがほぼ同一と認められる場合には代表者が線量計をもつことは、特に違法なことをしているわけではない。

4

Q. 追加で調査をすることはしないのか。

A. 現段階では、1次評価を先行して進めている。

Q. 福島事務所の会見で、試験運転中のキュリオンのセシウム吸着装置の配管の継ぎ手の補修をしておいているとの話があったが、パテをはずしてガラステープでまき直し、固めたということだが。

A. にじみがある箇所を踏まえて、再確認をおこなっているという話は聞いている。確認させていただく。

→その後、にじみの恐れのある46カ所の修理を、ガラス繊維とアクリル樹脂で勝利をした旨説明

Q. 新たに水漏れがあったのでというわけではないのか。

A. 新たな水漏れは確認されていない。

Q. 除染作業でどれくらい軽減できるのか。

A. 除染前後の線量を測定してどれくらい軽減できたのかを測定していく。

Q. 被ばく線量の測定で1次評価後の2次評価はいつどのように行うのか。

A. 1次評価で内部被ばくが20mSv/hを超えている作業員の方にJAEAで精密な検査を行っていく。

Q. グループの中で線量計を1つ代表者が持っていたとあるが、最も人数の多いグループの作業員の数は何名か。

A. 確認させていただく。

Q. 基準線量を超える作業員が出てきたことに関して、今後、作業員の被ばくの管理をどのように行っていくのか。

A. どういった状況で内部取り込みが多かったのが原因を究明している段階である。3月の事故発災直後、プラントの復旧に全力を尽くしていた状況で、被ばくの管理まで手が回らなかったのではないかと考えているところ。4月からは、マスクの着用指示・徹底が出来ているので、現時点では放射性物質の大量の内部取り込みは起こらないのではないかと考えている。

Q. 杉並区へのグラウンド売却についての報道があるが、事実関係は。

A. 対象は杉並区下高井戸の東京電力総合グラウンド。面積43,839.72m²。こちらについては今後、杉並区と売却に関する協議を具体的に行っていく。

Q. 売却の経緯は。

A. 6月7日に杉並区と売却についての協議を始めている

Q. その他保有している資産売却はどの程度の規模で進めているのか。

A. 福利厚生施設を中心に売却することとなると思うが、具体的なことについては現在

5

検討中。決算時に資産売却により6千億円以上の資金確保を目指すと発表しているが、その一環として進めているもの。

Q. 汚染水処理装置は今のところ順調と考えていいのか。想定されるトラブルは。アレバの除潜水の試運転の開始時間は。

A. セシウム吸着塔は当初水のにじみ出し等のトラブルがあったが、現在は順調、除染能力も問題ない。またパテの追加補修でさらなるリスクの低減効果ははかれている。アレバの除染装置は吸着剤や薬剤の拡販状況については問題なく、本日午後からの試運転を実施する。

Q. 1号機の注水量を下げたが、1号機のたまり水はどのようなルートで2号機タービン建屋へ回り込んでいるのか。

A. 1号機へ注水した水は地下1階に溜まり、1号機廃棄物処理建屋から隣の2号機廃棄物処理建屋を経由して、2号機タービン建屋に流出していると考えている。これはこれまで1号機タービン建屋の水位がほとんど動いていないことから、このような動きであると想定しているもの。

Q. 1号機の炉注水量を0.5m³/h減らすことで、2号機のタービン建屋の水位上昇をどの程度抑えることが出来ると考えているか。

A. 0.5m³/hのため、日量換算で12m³程度の影響であることから、劇的にタービン建屋の溜まり水が下がるものではなく、出来るだけ下げたいと考えているもの。

Q. 1号機の注水量を下げ、2号機の注水量を下げない理由は。

A. 1号機の圧力容器の温度が最も安定しており、これまでの水量を上下した際の傾向も比較的正確に把握できていることから、1号機の流量を下げて特段の問題はないと判断したもの。

Q. 2, 3号機の炉注水量はこれ以上下げられないのか。

A. 2, 3号機も安定している状態であり、2, 3号機の流量を減らす可能性はあるが、流量を減らす方向であることから慎重に判断したいと考えているもの。

Q. アレバ社とキュリオン社の設備を一括で試運転をさせる際、単体では起こらなかったトラブル発生の懸念はあるか。

A. 設備のつなぎ目の部分が一番の懸念事項。キュリオン社から出てきた水をアレバ社側のポンプで吸い上げることになるので、吸い込む圧力が足りないなどの懸念があるが、そのような点を今回の試運転で微調整を実施していく。

Q. 世界でキュリオン社とアレバ社の設備を組み合わせる除染作業を実施したことはあるのか。

A. 同時に除染を行った実績があるかどうかについては確認する。

Q. 両社の設備は配管で接続するということか。

A. その通り。

6

Q. 保安院の会見では、1Fの作業員が全面マスクを外してたばこを吸っていたとの発言があったが、詳細はどうか。

A. 当社も詳細について把握しておらず、確認させていただきたい。

Q. たばこを敷地内で吸うことはマニュアル上どうなのか

Q. 全面マスク着用エリアのため、喫煙をはじめ飲食は禁じられている。

Q. ふくいちライブカメラについて、6月10日夜間に白煙や光が見えたが、その原因は。また4号機使用済み燃料プールでは赤や黄色の光が見えることもあるが、その原因についても教えて欲しい。

A. 夜間に見える白煙は水蒸気と思われ、光は夜間の作業における証明や車のライトと思われる。4号機の使用済み燃料プールに関しては確認させて欲しい。

Q. 海に出た10%の油は回収済みと言うことでいいか。

A. 吸着マットは260枚程度入れており現在一部は海にあるが、順次回収中。

Q. 油の放出について、管理員は作業員に口頭で説明したとのことだが、作業員に落ち度はあったのか。

A. 管理員は作業員に口頭で伝えていたが、どの程度の水量が入っているかなどの情報や、実際に排出する際には油分の混入がないことを確認するなどのもう少し丁寧な説明があっても良かったのではないかと考えている。

Q. セシウム吸着塔への追加補修を行ったことで全体工程に影響は出ないのか。

A. 現在はアレバ社の試験を実施しており、キュリオン社はその完了を待っている状況であるため、その待ち時間で吸収できる作業工程であることから、全体工程に対しては特段影響ないと考えている。

以上

情報共有
(非管理メモ) 8枚
福島以内宛

官邸メモ ← フォルダ付
NISAメモ

6/15 22:00
東京電力株式会社
PRAFc

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成23年6月15日(水) 18:30~20:00

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約45名(カメラ4台)

当方：原子力・立地本部

原子力・立地業務部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について(6月14日採取分)
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第八十二報)
- ・ 福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について(第八十四報)
- ・ 福島第一原子力発電所構内における土壌中の放射性物質の核種分析結果について(続報18)
- ・ 福島第一原子力発電所3号機における使用済燃料プール代替冷却浄化系の設置に係る経済産業省原子力安全・保安院への報告について
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ(6月15日12:00現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 3号機原子炉建屋内映像

よりプラント状況、配付資料に関して説明を実施。

質疑：

- Q. 当初、東京電力が、作業員の被ばくの算定基準を3月21日にしていた理由は、厚生労働省は被ばく基準では3月12日にしているが、現在の東京電力の被ばく基準は何日なのか。
- A. 当社が意図的に3月21日を算定基準にしたというわけではない。被ばくの評価の仕方には何種類がある。2次評価のように一番早い段階、今回であれば3月12日に内部取り込みがあったとするような最も保守的な評価で行う方法、また3月の評価であるので3月12日から3月31日まで平均的に内部取り込みがあったとする方法、最後に、3月12日から3月31日の真ん中である3月21日に集中的に取り込んだとする方法がある。今後、詳細な行動調査ができれば、何日に取り込んだということで評価することも可能である。
- Q. 今後、具体的な行動調査を行って、基準となる日を決定するという事か。
- A. その通りである。今後、3日間で平均的に取り込んだとするのか、最初に被ばく線

量を超えた2名のように3月12日に全量の内部取り込みがあったとするのが妥当なのか判断していく。

Q. アレバ社の除染装置の試運転は具体的にどのような作業を開始しているのか。

A. 本日13時10分開始した。サプレッションプールサージタンクの水をセシウム吸着装置をバイパスしてアレバ社の除染装置を通してサプレッションプールサージタンクに戻すという循環運転を行っている。約8時間、循環運転する予定。

Q. プロセス主建屋の容量の残りが少ないが、今後どうするのか。

A. 目標とするO.P.5100mmに到達するのは明日の午前中くらいだと思うので、到達した際に、2・3号機からの移送を停止するということになる。

Q. 1号機の復水器の容量と移送量は。

A. 復水器から復水貯蔵タンクへの移送は本日10時頃から開始しており、現在も継続中である。移送量については確認する。受け入れ可能容量としては1200m³程度を見ている。

Q. 1号機復水器受け入れ容量1200m³とは復水貯蔵タンクへ移送後の容量のことか。

A. その通りである。

Q. プロセス主建屋の水位が明日の午前中にO.P.5100mmになるとのことだが、明日は移送しない状況が発生するのか。

A. 明日、ずっと中断するのか、どこかへの移送を再開するのかはまだ決まっていない。

Q. 雑固体廃棄物減容処理建屋への移送準備の状況は。

A. まだ保安院へ報告が出来ていないので、報告をして了解を得られ次第、移送を開始したいと考えている。

Q. 1号機復水器の水はいつ移送を開始するのか。

A. 確認させていただく。

Q. 1号機の復水器への移送には保安院の了解は必要なのか。

A. プラント内の移送なので必要ない。

Q. 移送の報告書のケース2では6月29日がO.P.4000mmに達するところとなっているが、変更はないか。

A. 福島第一原子力発電所では好天が続いており、雨水などの流入がないので行程に変更はない。

Q. 汚染水の溜まり方としてリスクが最も高いのは何号機のどの場所と認識しているか。

A. O.P.4000mmに最も近い3号機の溜まり水であり、その中でもトレンチの溜まり水を最も警戒している。

- Q. タービン建屋の水位について、監視装置などを増やしたりする予定はないのか。
- A. タービン建屋内の水位計に関しては、監視カメラによって免震重要棟からいつでも確認できる状態にある。
- Q. 万一、O.P. 4000mm に達した場合どうなるのか。
- A. ピットは閉塞しているが、トレンチからしみ出してくる可能性はある。
- Q. 2、3号機の原子炉への注水の流量は変更しないのか。
- A. まずはパラメータがより安定している1号機から実施した。まずは1号機の傾向を監視していく。
- Q. 5月31日の評価で発電所内に10万5千mm³の汚染水が溜まっていたが、現時点では11万mm³程度になっているのではないか。
- A. すべて漏れているとしたら一日あたり500mm³程度になる。
- Q. セシウム吸着装置と除染装置の組み合わせ運転はいつ頃になりそうか。
- A. アレバ社の除染装置の試験は本日23~24時頃になる。組み合わせ試験については明日になる可能性もある。
- Q. 組み合わせ試験は4時間程度か。
- A. 現時点では数時間程度と考えている。
- Q. 本格運転が始まった後、具体的にどのプラントの原子炉に注水していくのか。
- A. 淡水化装置を通った処理水を一端タンクに入れるが、その後、ろ過水タンクにつながっている。その後、1~3号機に分配されて注入されることになる。
- Q. 水処理システムが本格稼働すればすぐに処理水の注水が始まるということか。
- A. 処理水をある程度タンクにためておく必要があるので、本格稼働後すぐに注水するわけではない。注水する際は事前に報告させていただく。
- Q. 2号機原子炉建屋の環境改善報告はいつになるのか。
- A. まだ報告できていないが、本日深夜になるのではないかとと思われる。明日午前中の会見で皆さまに報告させていただきたい。
- Q. 3号機使用済燃料プール循環冷却工事は6月末に完成するとのことだが、運転開始も6月末ということか。
- A. 6月18日までは準備工事で電源ケーブルや配管の設置作業を行う。その後、熱交換器や冷却塔の設置をして6月30日頃には試運転を開始する。試運転に問題がなければ7月上旬頃には本格運転できる。
- Q. 3号機使用済燃料プール循環冷却の評価は1週間で41℃程度になり、1ヶ月で40℃程度になるという評価だが、40℃より下がらないということか。
- A. 保守的な評価をしている。2号機のように一気に30℃程度になるかはわからない。

Q. 1号機使用済燃料プール循環冷却工事の進捗状況は。

A. プールへ戻すラインの設置がまだできておらず、1ヶ月程度、後になると考えている。

Q. 作業員の喫煙について、どういう経緯で確認されたのか。

A. 午前9時頃から原子炉建屋をカバーで覆うためのクローラークレーンを組み立てる小型のクレーンの作業に従事していた。そのクレーンの操縦席で喫煙しているところを、本日11時5分頃当社監理員が見つけて注意した。

Q. なぜ喫煙を実施したのか。

A. 聞き取りをしたところ、クレーンの操作をしていない時間に気がゆるんでしまったとのことである。また、今回が構内で初めての喫煙と聞いている。当該作業員は3月20日から働きはじめ、計48日間作業している。放射線管理区域は禁煙であること、休憩所等の所定の場所で喫煙するよう指導していたが、個人で勝手に判断して喫煙したと考えている。

Q. 被ばく線量は計画線量内か。

A. 0.9mSvなので、内部、外部被ばく足しても計画線量内である。操縦席の雰囲気線量は0.063mSv/hであった。

Q. 操縦席はむき出しになっているのか。

A. 操縦席の外の雰囲気線量が0.065mSv/hなので、特別な遮へいがされているわけではない。

Q. 内部被ばくの結果がすぐに出てきたのはなぜか。

A. 内部取り込み日が本日と確定しているので、小名浜CCで測定し、すぐに結果が出た。

Q. タバコはどうやって持ち込んだのか。タイベックにはポケットなどはないのではないか。

A. 自ら服の中に隠して持ち込んだと聞いているが、具体的には確認させていただく。

Q. 3号機使用済燃料プールの代替冷却装置は2系列とも稼働させるのか。

A. 1系列のみ稼働させ、もう1系列は予備用である。

Q. 休憩所で持ち物の管理はしていないのか。タバコの件だけでなく、線量計を置き忘れるようなこともあるのではないか。

A. 自分の管理に必要なものなので、作業員の意志で置いていくようなことはない。

Q. 線量超過から逃れようとして個人線量計を持って行かない作業員もいるのではないか。休憩所などで持ち物等の管理はしていないのか。

A. 今までそのような確認はしていない。

- Q. 福島県の有識者会議において事故からの復興に向けた脱原発の考えが打ち出されたが、東京電力として現段階でどのように考えているか。
- A. 一刻も早く1Fの事故収束に全力で取り組んでまいりたい。また、KKについても安全第一で安全、安定運転に努めてまいりたい。脱原子力の考えについては当社だけでなく、幅広く国民の皆さまのご意見が必要になってくるのではないかと考えている。
- Q. 昨夜、ふくいちライブカメラで4号機付近が赤や黄色に光っていたのはなぜか。また4号機から水蒸気が上がっていたが。
- A. 夜間のため、高感度カメラで撮影している。建屋を照らす光の加減と思われる。水蒸気は、使用済燃料プールのものと考えている。
- Q. 3号機使用済燃料プール代替冷却について、建屋内の瓦礫は影響ないのか。
- A. 水の取り出し口付近に瓦礫はあるものの、直接の影響が出るようなものではない。また、使用済燃料プールへの戻りのラインに影響が出るような瓦礫はない。
- Q. アレバ社の除染装置の試運転の状況について、現時点で確認されている実績は。
- A. 運転して数時間なので、まだ報告できる情報はない。明日の午前中の会見ではある程度の状況をご紹介したい。
- Q. 4号機の使用済燃料プールの耐震工事の進捗状況は。また、完成の目処は。
- A. まだ工事中だが、32本の鋼製支柱を建てているところ。1段目は31本、2段目は29本、3・4段目は25本終了している状況。その後、鋼製支柱の内側にグラウト注入をする。
- Q. 1～3号機においても使用済燃料プールの補強工事は行うのか。
- A. 1号機も4号機も基準地震動 S_s の解析でも健全性が確認できると評価している。4号機については、建屋の損傷が激しいため、念のため補強することにした。2、3号機の耐震性は評価中。
- Q. 飛散防止剤の散布量は平面、法面、建屋ごとにどの程度の量、面積なのか教えてほしい。
- A. 確認させていただく。
- Q. 道筋について、見直す予定は。
- A. 6月17日前後に道筋の進捗状況を報告したいと考えている。
- Q. 新たにどのような変更を加えようとしているのか。
- A. 今のところ大きな変更はないと考えている。作業員の環境改善等について考えているところ。
- Q. 今後、発生する廃炉や汚泥処理等について具体的な記載を追記する予定はあるのか。

- Q. 送迎車の中に2Fのバックオフィスの人はいたのか。
A. 確認中である。
- Q. 保健所の見解はいつ頃出るのか。
A. 排菌検査に数日かかると聞いている。
- Q. セシウム吸着装置の不具合の詳細原因は確認できたのか。
A. 弁のラインアップが当初の予定通りではなかった。操作ミスか、確認漏れかは詳細に判明していない。ただし、ラインアップの状況を確認することそのものが試運転の目的であり、その確認ができたものと考えている。
- Q. 今後、水処理浄化システムの試運転で考えられるリスクはどのようなものがあるか。
A. 現状、セシウム吸着装置は4系列で運転できているので、今後、アレバ社の除染装置との組み合わせを実施していく。
- Q. 各水処理システムの運転状況は免震重要棟で管理していくのか。
A. プロセス主建屋にトレーラーハウスのようなものがあり、そこで管理していくことになる。
- Q. セシウム吸着装置、アレバ社の除染装置のポンプ、弁の数は。
A. キュリオン社のセシウム吸着装置だけでポンプが16体、弁の数は多数になる。アレバ社の除染装置とあわせて確認させていただく。
- Q. 8月に導入予定の淡水化装置の設置費用は591億円の予算に入っているのか。
A. 入っている。
- Q. セシウム吸着装置の補修について、パテ部分をガラス繊維とアクリル樹脂へ張り替える作業はすべて終わったのか。
A. 46箇所すべて終わった。
- Q. 3号機原子炉建屋の動画の最後に黄緑色に見えた部分は何か。
A. 建屋内に入っている照明の関係か、付近の油膜が写っているのかもしれない。水面近くまで近寄っていないのでわからない。
- Q. 藻類のようなものが発生しているわけではないのか。
A. 藻類が繁殖しているようなことはないと思う。
- Q. 3号機原子炉建屋の動画について、公開まで1週間近くかかったのはなぜか。
A. 東芝が撮影したデータで提供まで時間がかかった。
- Q. 使用済燃料プールの循環冷却システムについて、4号機の実施の見通しは。
A. 7月中を目指しているが、使用予定の配管が水素爆発の影響で曲がっているため、当該配管をサポート等で再利用できるか、他の配管を使うか検討中。少し遅れるか

もしれない。

Q. 2号機の使用済燃料プールの循環冷却に不具合は確認されていないのか。

A. これまで順調に冷却されており、32℃程度で安定している。

Q. 中央登録センターに登録されている方で、平常時の作業で100mSvを超えている人はどれくらいいるのか。

A. 中央個人登録センターによる個人管理なので、当社としては把握していない。

Q. 3号機の使用済燃料プールの循環冷却は廃棄物処理建屋に熱交換器を設置することだが、線量は高いのか。

A. 具体的な数値はないが、原子炉建屋内ほど高くはない。

Q. 原子炉建屋内の水が廃棄物処理建屋へ流れ出ていると思うが、どの程度たまっているのか。

A. 580m³ほど建屋の地下にたまっているが、循環冷却の装置は1階に設置する。

Q. 当該位置のたまり水の分析は。

A. 6月2日にお知らせした報告書の通りである。

Q. 1・2号機廃棄物処理建屋の汚染水については黙視確認しているのか。

A. 確認している。

Q. 原子炉の冷却はどのように進めていくのか。

A. 水処理システムで浄化された水を用いて冷却していく。

以上